

『明るい歌』 作：ポチ子

『明るい歌』 作：ポチ子

暗い歌が好きだった。

なんとなく暗い歌の方が、

深い意味を持っているような気がした。

だから、何度も聞いた。

明るい曲はどれも一緒に、

言葉が軽く聞こえた。

未来は明るいものだって、

そう唱える歌詞は胸に響かなかった。

『明るい歌』 作：ポチ子

でも、大人になって気がついた。

この歌詞を書いた人も、

きっと苦しんでいる大人なのだ。

それなのにこの人は、

希望を歌うのだ。

自分は苦しみを背負いながら、

誰かを救う言葉を紡ぐのだ。

強い人だと思った。

私にはできないことだと思った。

— 終わり —